

令和4年度高齢者虐待の状況について

1 要旨・目的

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」第25条の規定に基づき実施した、令和4年度の県内の高齢者虐待の対応状況等に関する調査結果を報告する。

2 現状・背景

この調査は、国が高齢者虐待の対応状況等を把握するため、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づき、平成19年度から毎年度、都道府県を通じて実施しているもので、本県においては、高齢者虐待に係る注意喚起や虐待予防に繋げるため、調査結果を施設内虐待・家庭内虐待別に取りまとめ、公表している。

3 概要

(1) 調査対象

県内で発生した高齢者（65歳以上及び65歳未満で養介護施設・事業所を利用する障害者）に対する虐待

(2) 調査期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

(3) 調査結果

前年度と比べ、施設内虐待、家庭内虐待ともに相談件数・虐待件数が増加した。

ア 施設内虐待

【虐待のあった施設】

特別養護老人ホーム、認知症対応型共同生活介護、短期入所生活介護、（介護付き）有料老人ホーム、（住宅型）有料老人ホーム、訪問介護、小規模多機能型居宅介護

【虐待の内容】

身体的虐待、介護等放棄、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待の順に多い。

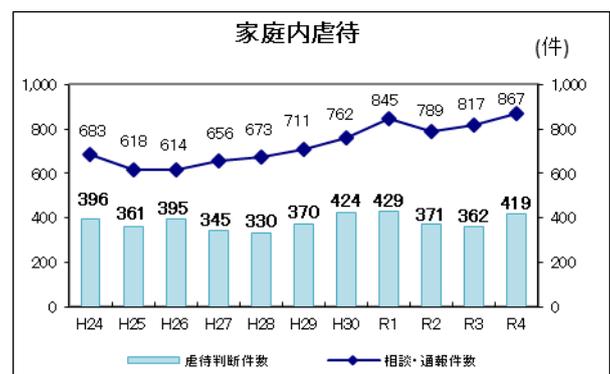
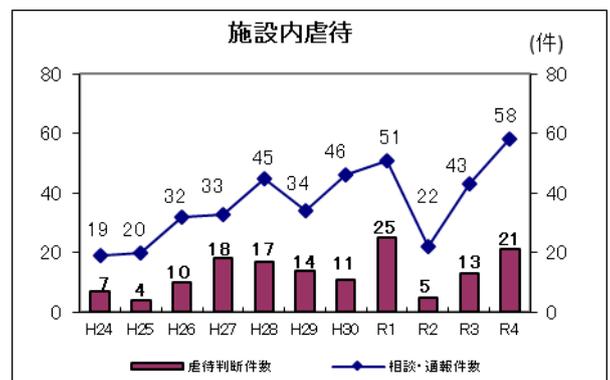
【対応状況】

虐待の通報等があった施設等に対し、市町が事実確認を行った上で指導を行い、改善計画書の提出を求めた。

イ 家庭内虐待

【虐待を受けた人】

性別では80%が女性、年齢階層別では81%が75歳以上、要介護度別では78%が要介護・要支援認定を受けており、その内認知症の人は、95%だった。



【虐待の内容】

身体的虐待、心理的虐待、介護等放棄、経済的虐待、性的虐待の順に多い。

【対応状況】

- ・虐待者からの分離を行った事例
契約による介護保険サービスの利用、医療機関への一時入院、転居 等
- ・虐待者から分離を行わなかった事例
養護者への支援、ケアプランの見直し、見守り（経過観察含む） 等

(4) 今後の対応

高齢者虐待の未然防止・早期発見とともに、虐待を受けた高齢者への適切な対応が行えるよう、引き続き市町及び関係機関と連携して、次の取組を推進する。

ア 介護サービス事業者や介護スタッフへの対応

- (ア) 介護福祉士会による認知症高齢者に対する虐待防止に係る研修の実施（介護スタッフ）
- (イ) 集団指導や指導監査等における虐待防止に係る助言・指導（介護サービス事業者）
- (ウ) 介護支援専門員協会及び介護福祉士会が実施する研修・会議等での法の趣旨や虐待通報義務の周知（介護スタッフ）

イ 高齢者虐待に関する市町等の体制整備

- (ア) 市町や地域包括支援センターを対象とした対応力向上や体制整備の充実を促す研修の実施
- (イ) 複雑困難な事例に対する地域包括ケア推進センターからの専門家派遣による支援

ウ 高齢者の権利擁護等

- (ア) 成年後見制度等の活用を視野に入れた高齢者の権利擁護の確保
- (イ) 住民等による見守り等、自主的な活動の推進による地域包括ケアシステムの強化

4 その他(参考)

●施設内虐待の状況

<調査結果>		<虐待を受けた人の状況>		<虐待をした人の状況>			
通報等を受理した事例	58件	性別	男性 9人	虐待があった施設等	特別養護老人ホーム	6件	
内)虐待の事実が認められた	21件		女性 49人		介護老人保健施設	0件	
※本調査対象年度内に通報等を受理した事例			合計 58人		認知症対応型共同生活介護	5件	
<市町の措置>(重複あり)		年齢階層	65歳未満		1人	(住宅型)有料老人ホーム	1件
施設等に対する指導	21件		65~69歳		0人	(介護付き)有料老人ホーム	2件
改善計画の提出を求める	21件		70~74歳		0人	小規模多機能型居宅介護	1件
従事者等への注意・指導	5件		75~79歳		5人	軽費老人ホーム	0件
報告徴取, 質問, 立入検査	6件		80~84歳		6人	養護老人ホーム	0件
介護保険法の規定による改善勧告	1件		85~89歳		17人	短期入所生活介護	4件
介護保険法の規定による改善命令	0件		90~94歳		18人	訪問介護	2件
<虐待の内容>(重複あり)				95~99歳	9人	通所介護	0件
身体的虐待	24件		要介護度	100歳~	2人	居宅介護支援事業所	0件
介護等放棄	20件			自立	0人	合計	21件
心理的虐待	19件	要介護1		4人	虐待をした人	介護職員	22人
性的虐待	3件	要介護2		3人		計画作成担当者	1人
経済的虐待	2件	要介護3		22人		看護職	1人
		要介護4		18人		管理職	1人
		要介護5	11人	合計		25人	
		不明	0人				
		認知症の有無	なし	1人			
			あり	57人			

●家庭内虐待の状況

<調査結果>		<虐待を受けた人の状況>		<虐待をした人の状況>			
通報等を受理した事例	867件	性別	男性 86人 20%	夫	106人 24%		
内)虐待を受けた(認められた)と判断	419件		女性 339人 80%	妻	27人 6%		
※本調査対象年度内に通報等を受理した事例			合計 425人	息子	169人 39%		
<虐待の内容>(重複あり)		年齢階層	65~69歳	28人 7%	娘	86人 20%	
身体的虐待	267件		70~74歳	53人 12%	息子の配偶者	8人 2%	
介護等放棄	98件		75~79歳	77人 18%	娘の配偶者	1人 0%	
心理的虐待	171件		80~84歳	106人 25%	兄弟姉妹	4人 1%	
性的虐待	1件		85~89歳	93人 22%	孫	6人 1%	
経済的虐待	89件		90歳以上	68人 16%	その他	30人 7%	
			不明	0人 0%	不明	0人 0%	
			要介護度	未申請	71人 17%	合計	437人
				申請中	13人 3%	・「息子」が39%と最も多く、次いで「夫」が24%、「娘」が20%	
				自立	10人 2%	・「女性」が80% ・75歳以上が全体の81% ・要介護認定者のうち95%が認知症あり	
		要支援1		30人 7%			
		要支援2		25人 6%			
		要介護1		93人 22%			
		要介護2		71人 17%			
		要介護3		52人 12%			
		要介護4		31人 7%			
		要介護5		29人 7%			
		不明	0人 0%				
		認知症の有無	なし	13人 4%			
		(要介護・要支援認定者 n=331)	あり	316人 95%			
			不明	2人 1%			
<虐待への対応策>		※「認知症あり」=認知症日常生活自立度区分で「自立度Ⅰ」以上の方を集計					
○虐待者との分離の有無		○分離した事例の主な対応					
分離した事例	114人 27%	契約による介護保険サービスの利用	42人 37%				
分離しなかった事例	227人 53%	医療機関への一時入院(虐待者を含む)	29人 25%				
検討・調整中	14人 3%	やむを得ない事由等による措置	8人 7%				
虐待判断時点で既に分離状態	70人 16%	虐待者を高齢者から分離(転居等)	17人 15%				
合計	425人	緊急一時保護	2人 2%				
		その他(上記以外の住まい・施設等の利用等)	16人 14%				
		合計	114人				
○分離しなかった事例の主な対応(重複あり)							
養護者への支援	195						
ケアプランの見直し	94						
見守り(経過観察含む)	84						
新たに介護保険サービスを利用	40						
養護者が介護負担軽減のための事業に参加	21						
※構成割合は、小数点以下を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。							